

JOMF 派遣医師便り (2014. 2)

◆シンガポール◆

建国世代に福祉の拡充

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

シンガポールは来年建国 50 周年を迎えます。これを記念していくつかの事業が計画されています。その一環として、建国世代に属する人々は建国への貢献があったとして“pioneer generation package” がもらえることになりました。これを受け取れるシンガポール人は約 45 万人ということになります。

このパッケージは物ではなく、この世代の医療費の負担を減らすという政策です。シンガポールには medisave という公的保険制度があります。これはその人の給料の一部を強制的に将来の医療費などのために蓄える貯金です。(強制貯金とは言え、あくまでも貯金ですのでその人個人のものであって、日本のような税金としての徴収とは全く異なるものです。)そして、それでは足りない部分を補うものとして medishield という制度があります。これは年齢を経ると医療費が増えることを反映して納入額が増えます。たとえば、20 歳までは年間 50 ドルですが、50 歳代には 345 ドルとなり、80 歳を超えると 1100 ドル以上になります。これは medisave から支払うことができるのですが、かなりの負担になります。

“pioneer generation package” は、これを割り引き、また、医療機関にかかった時にも今よりも経済的補助を増やそうと言うものです。具体的内容は近日中に発表されるということです。

シンガポール政府の言う建国世代とは 1965 年(独立年)に 16 歳以上だった世代、つまり現在 65 歳以上で、1986 年以前に市民権を得た人ということです。

これは高齢者福祉政策のひとつということができるでしょう。しかし、以前、政府は、シンガポールは西欧先進国の様な福祉国家にはならない(そういう政策はとらない)と言っていました。それは、福祉の経済的負担を支えきれないという予見があったからだと思われます。

今回の政策は、これと少し、矛盾することになるようにも思えますが、(建国世代を労うことで現政権党の支持基盤を守るという思惑の他に)、建国の苦しみを人々に知らせ、思い起こさせる狙いがあるように思います。

以前から、建国の父として尊敬されているリー・クアン・ユー元首相は建国の際の苦勞を知らない国民が増えてきていることを危惧していました。それは、今日の繁榮を得るま

での苦しみを知らないことは、この繁栄がいかに貴重で得難いものであり、これを維持することの大変さや大切さがわからないということになるという危惧です。天然資源もなく食料のほとんど水すら大部分を自給できない国にも関わらず、経済的な巨人を実現し、居住人口の 1/3 が既に外国人となるほど人を惹き付ける魅力的な国となったシンガポール、そして今後高齢化が急速に進むシンガポールには既によいお手本とすべき国はないように感じます。今の繁栄を維持発展させていくにはどう進んだらよいのか、現役世代に課せられた課題は大きいと思われます。